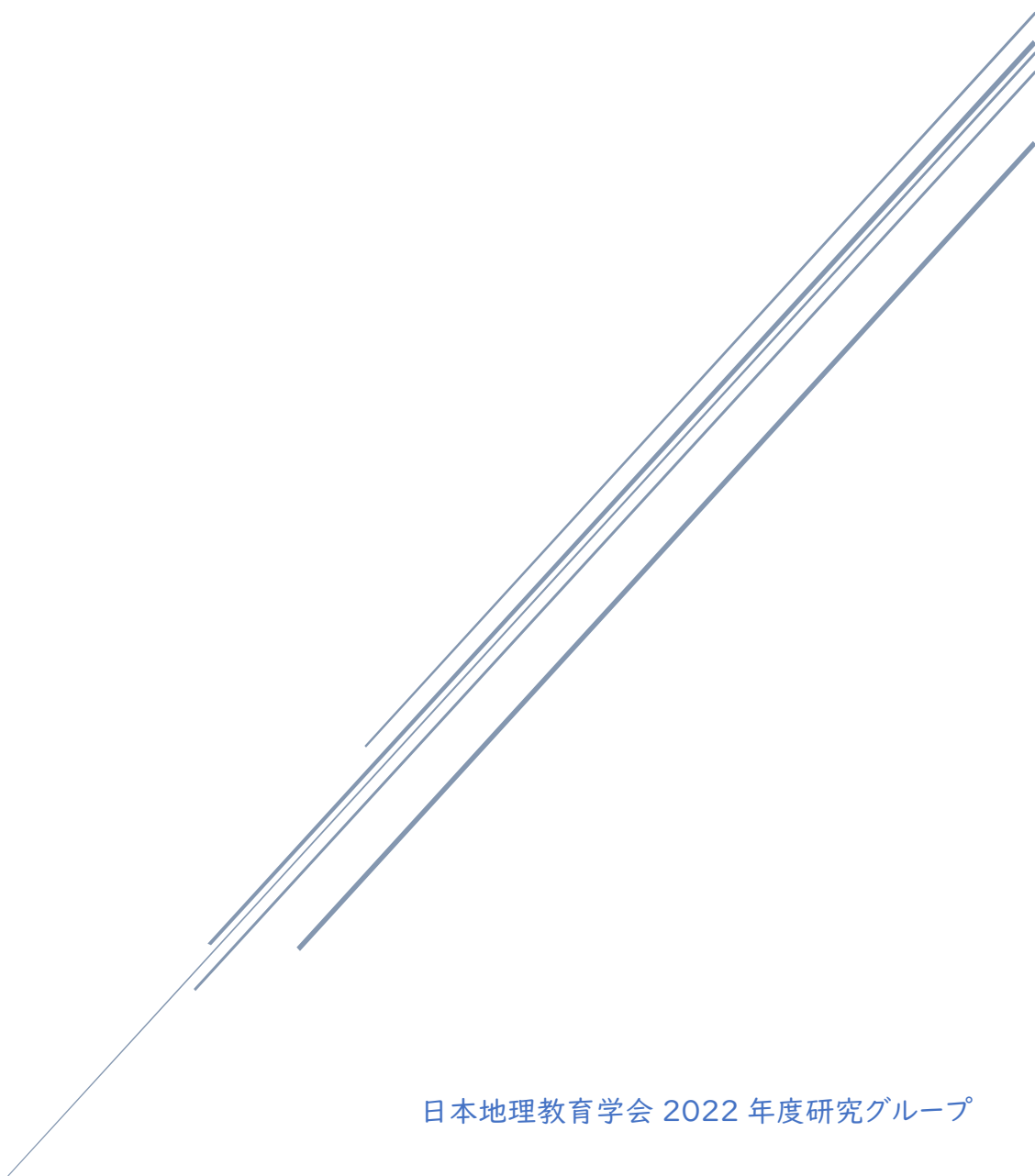


小中高一貫地理教育カリキュラム研究グループ

2022 年度活動報告書



日本地理教育学会 2022 年度研究グループ

小中高一貫地理教育カリキュラム研究グループ(代表:吉田剛)

報告書目次

2022 年度研究グループ活動	- 2 -
2022 年度各ユニット活動報告	- 3 -
カリキュラム理論ユニット	- 4 -
国内カリキュラムユニット	- 6 -
諸外国カリキュラムユニット	- 10 -
ESD・SDGs ユニット	- 11 -
地誌・系統地理・テーマユニット	- 13 -
フィールドワークユニット	- 14 -
GIS/地図ユニット	- 16 -
テクノロジーユニット・DB ユニット	- 18 -
小中一貫ユニット	- 20 -
中高一貫ユニット	- 21 -
2022 年度研究業績一覧	- 22 -
学会発表・報告	- 22 -
書籍・論文等	- 22 -
研究グループ公式ウェブサイト	- 24 -

2022 年度研究グループ活動

- ① 例会(スタートアップ) 5月25日(水)19:30~21:00(オンライン)
- ② 臨時:例会 8月18日(木):公開研究協議会に向けた打ち合わせ 19:00~21:00(オンライン)
- ③ 公開研究協議会①8月21日(日)15:20~17:20(オンライン)。*研究趣旨・研究組織・スケジュール計画・ユニット進捗状況・カリキュラム理論素案などの説明。
- ④ 例会9月(平日夜):研究助成申請の協議(オンライン)
- ⑤ 例会11月(平日夜):授業構想の意見交換(オンライン)
- ⑥ 例会1月7日(土)15:30~18:00(ハイブリッド・東京(学習院初等科)・対面意見交換有)
- ⑦ 例会2月16日(木)19:30~21:00:授業構想の意見交換(オンライン)
- ⑧ 日本地理教育学会2月例会2月23日(木・祝):14:00~16:30(オンライン)
- ⑨ 日本地理学会春季大会グループ発表<3つの成果発表> 3月26日午後

2022 年度各ユニット活動報告

	ユニット名	ユニット長
理論系 ユニット	①カリキュラム理論ユニット	吉田剛
	②国内カリキュラムユニット	近藤裕幸
	③諸外国カリキュラムユニット	阪上弘彬
	④ESD・SDGs ユニット	永田成文
	⑤地誌・系統地理・テーマユニット	河本大地, 深見聡
	⑥フィールドワークユニット	中村洋介
	⑦GIS/地図ユニット	國原幸一朗
	⑧テクノロジーユニット	吉田剛
	⑨データベースユニット	吉田剛
実践系 ユニット	小中一貫ユニット	佐藤克士
	中高一貫ユニット	阪上弘彬, 高木優

カリキュラム理論ユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

飯島典子(宮城教育大学), 永田成文(広島修道大学), 吉田剛(宮城教育大学)

● 活動の概要:

一貫地理教育カリキュラム理論の構築を目指す。

● 成果:

1. 2022年度日本地理教育学会大会(8月21日)において, 吉田が地理的概念を重視する一貫カリキュラムの大枠について発表した(【研究発表】吉田 剛:小中高一貫地理教育カリキュラムの近未来構想—「地理的概念の順次性」を軸とした場合—)。また同日の「研究グループ」発表において, 第1回小中高一貫地理教育カリキュラム公開研究協議会を開催し, 吉田が, 6月よりユニット長・幹事会や全体例会において提示してきた, いくつかの一貫軸を改良したものが提示された。
2. 2022年度日本社会科教育学会回全国研究大会(10月22日・23日)において, 吉田が地理的概念を支柱にする一貫カリキュラムの三構成領域について, 国際地理学連合地理教育委員会宣言や OECD『Education2030』や ESD2030 などの理論的な検討ともに, 理論的な枠組みを提示した(【研究発表】吉田 剛:幼小中高一貫地理教育カリキュラムの近未来社会型フレーム—OECD『Education2030』および Society5.0 に着目して—)。
3. 本研究グループ第4回例会において(11月28日(月)オンライン), 飯島典子先生よりご講演「幼稚園教育カリキュラムの概要について」があり, 幼児と地理教育に関する活発な議論が行われた。また, 先の日本社会科教育学会で発表した吉田の理論をもとに, 一貫カリキュラムの構造と学習段階:地理的概念を支柱として内容・方法・価値の領域と, K から9レベルの段階が説明された。さらに吉田より系統表作成とこれまでの地理教育研究の課題の検討が提案され, 系統表は吉田が作成し, 課題は永田先生が取りまとめ, それらは12月下旬に全員に共有され, 次の第5回例会(学習院初等科:ハイブリッド)で協議された。
4. 日本地理教育学会本体の2月例会において, 次のように, 一貫カリキュラムの原理と理論化への系統表と, 各学習段階における理論と実践に関する論点となる検討・考察が報告された。約70名の参加において, とくに初等教育部での議論を中心に協議がなされた。そして例会報告として『新地理』に投稿する予定となった。
5. 【2022年度 日本地理教育学会2月例会 オンライン開催(2023.2.23)】
テーマ:「幼小中高一貫地理教育カリキュラム研究—理論から実践へ—」
日時:2023年2月23日(木)祝日 14:00~16:30
司会進行:永田成文(広島修道大学)・阪上弘彬(千葉大学)
趣旨説明および基調報告:吉田剛(宮城教育大学):一貫地理教育カリキュラムの理論から

実践へ

報告1:飯島典子(宮城教育大学):幼稚園教育から考える小学校地理教育

報告2:大矢幸久(学習院初等科):小学校地理教育から考える中学校地理教育

報告3:木場篤(ノートルダム清心中・高等学校):中学校・高等学校地理教育の一貫性

報告4:高木優(神戸大附属中等教育学校):高等学校「地理総合」を起点としてみる一貫性

コメント:近藤裕幸(愛知教育大学),総合討論,総括:吉田剛(宮城教育大学)

6. 2023年2月28日(水)オンラインにおいて,吉田が原理から理論化や実践に向けた単元開発に関する説明を行った。その中で原理における各所や一貫軸に関する系統表の扱い方,同学年の単元開発からスモール・ステップから広げて考えていく過程などが説明された。その後,現場の先生方向けに希望する単元開発の調査を行い,その結果と今後進められる全体向けの単元開発フォームが共有され,次年度に繋がられる。

以上から成果として大まかにみると,学校教育における近未来社会のニーズを見据えて,一貫研究の意義,幼児教育も視野に入れた議論,そして一貫カリキュラムのねらいと原理(スコープとシークエンス)の考え方と,その中の地理的概念による支柱と一貫軸およびそれらの系統表などの具現化された成果が得られ,理論化や実践に向けた接合に関する見通しも得られてきた。主な成果は,次の論文による。

7. 論文等

吉田剛(2023.3):近未来社会型の幼小中高一貫地理教育カリキュラムのフレームワーク.宮城教育大学紀要,第57巻,pp.137-157.

● 課題:

次の5点が課題としてあげられる。

1. とくに内容領域における内容のまとまりづくりにおける地理学体系(地誌・系統地理・テーマ地理)を踏まえた単元の設定と配列。
2. これまでの地理教育研究の課題の整理
3. 各一貫軸の系統表の吟味・精緻化(各ユニットと連携)
4. 理論化・実践へのプロセスの検討(実践系ユニット連携)
5. 近未来社会に必要な資質・能力の吟味
6. 幼児教育における地理関連教育の実態把握・分析・カリキュラム化
7. ARやVR, AI(例えば ChatGTP)活用や,メタバースでの地理教育の在り方

文責:吉田剛(ユニット長)

国内カリキュラムユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

近藤裕幸(愛知教育大学), 前田諒(仙台市立蒲町中学校), 守谷富士彦(桃山学院教育大), 吉田剛(宮城教育大学)

● 活動の概要:

このユニットの目的は, 学習指導要領の地理教育カリキュラムの特徴を目的・内容・技能などの視点から明らかにすることと, これまで地理教育では小中高の一貫性をどのように研究してきたのかを明らかにすることであった。

結果, これらをすべて解決できたとは言えないが, 以下に成果を報告し, 次年度の課題について述べる。

● ユニットミーティングの開催記録:

- ① 6月6日
- ② 7月12日
- ③ 8月9日
- ④ 9月9日
- ⑤ 10月12日
- ⑥ 11月16日
- ⑦ 12月14日
- ⑧ 1月11日
- ⑨ 2月15日
- ⑩ 3月8日

● 成果:

1. 学習指導要領の地理教育カリキュラム研究

(1) 吉田

現行の幼稚園教育要領解説や小中高学習指導要領解説より地理的概念に関する分析を行い, その特徴や傾向より, 一貫カリキュラムの「内容」「方法」「価値」の三領域におけるそれらの役割について考察し, 一貫カリキュラムのねらいとともにスコープやシーケンスからなるフレークワークの原理を導き出した(吉田, 2023)。また一貫カリキュラムとなる豪州 NSW 地理シラバスの分析を通して, 我が国の小中高を一貫する「社会的事象等について調べるまとめる技能」の改善に向けての示唆を行った(吉田・管野, 2023)。

- ・ 吉田剛(2023.3):近未来社会型の幼小中高一貫地理教育カリキュラムのフレームワーク. 宮城教育大学紀要, 第 57 巻, pp.137-157.

- ・ 吉田剛・管野友佳(2023.3):オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州幼小中高一貫地理シラバス 2015 年版の地理的探究スキルの分析ー我が国の「社会的事象等について調べるまとめる技能」の改善に向けてー. 宮城教育大学教職大学院紀要, 第 4 号, pp.51-63.

(2) 守谷

戦後日本の学習指導要領で定められた地理教育カリキュラムにおいて, 内容の系統性に着目し, そのスコープやシーケンスがどのようになされているのかを空間範囲と内容範囲に着目して整理し, 時代区分ごとの特徴や課題を明らかにすることを目的とした。分析の結果, (I)科学的知識内容を反復する時期, (II)中高の住み分けによる効率重視の時期, (III)主題重視による地誌軽視混乱期, (IV)地誌・主題への応用重視期, の 4 つの時期に分けて各時代の特徴や課題を明らかにすることができた。この結果を考察すると, 小・中・高の内容の系統性が崩れる原因に授業時間数の変化がある可能性が示唆される。今後, 日本の地理教育カリキュラムが内容を系統化させ, 一貫性をもつように構築する際の警笛の一つとなるだろう。

本研究は, 中国四国教育学会第 74 回大会での学会発表を経て, 「戦後日本の地理教育カリキュラムにおける内容の系統性ー小・中・高で学習する空間範囲と内容範囲に着目してー」として中国四国教育学会の紀要論文『教育学研究紀要(CD-ROM 版)』第 67 巻に掲載される(2023 年3月発行予定)。

(3) 前田

方法的側面に関わるものとして, 学習指導要領における「地理的技能」について分析を行った。小・中・高の学習指導要領の「目標」項目の記述を経年的に見ていく中で, 地理的分野で育成する技能はツールを扱う能力として説明されてきたこと, そしてそれらは「調査観察」, 「地図」, 「統計その他の資料」の3点に整理できることを明らかにした。また, それらの3点の記述が中学校でのみ全ての年版で示され続けていたことや, 中学校では「地理的技能」に関連する情報活用能力について早くから言及していたことから, 我が国の「地理的技能」育成においては, 中学校が重要な役割を担っていたと考えられる。

一方で, 「目標」以外の項目を対象とする検討ができていない点や, GISなど情報化に関わる技能について十分に分析できていない点など課題は残る。

本年度の成果は次年度 4 月に行われる東北地理学会第 1 回研究集会で発表した後に, 論文として投稿することを予定している。それと並行して, 上述した課題とも向き合っていきたい。

(4) 近藤

①1947 年から 1997 年までにおけるわが国地理教育の幼小中高一貫カリキュラム研究の動向を分析し, 以下のことを明らかにした。1947 年～1997 年までの約 50 年間の地理教育の一貫カリキュラムに関する研究は, 一貫性についての主観的な提言から, 調査などにもとづいた開発研究や実践研究へと移っていった。また, 今後のカリキュラム研究においては, 教科教育どうしの連携が必要であるということである。(近藤裕幸(2022).1947 年から 1997 年までにおけるわが国地理教育の幼小中高一貫カリキュラム研究の動向.地理学報告,124,107-122)。

②わが国の小学校・中学校・高等学校の学習指導要領にみられる「一貫性」の扱いを分析し,

以下のことを明らかにした。学習指導要領は、1947年から1957年にかけては児童生徒の成長段階に合わせて教育内容について学校種を越えて連携や一貫性を持たせようとしてきた。しかし、1958年以降は本文や解説において一貫性を持たせようとする考えは散見されるものの、初期社会科と比べると弱くなったと言える。ただ、2017年版学習指導要領では資質・能力について再び一貫性について言及があり再び学校種を越えた一貫性を持たせようとする動きが見られる。(近藤裕幸(2023).小学校・中学校・高等学校の学習指導要領にみられる「一貫性」の扱い—地理教育を中心に—。探究, 33号に掲載予定)

2. 地理教育一貫カリキュラム研究史

守谷と近藤で1947～2022年までの地理教育一貫カリキュラムの研究史の動向をまとめ、およそ8つの特徴を見いだした。一例を挙げれば、2022年現在、一貫カリキュラムといっても、小中、中高など隣接校種との一貫性や連携にとどまるものが多く、小中高を通した実践・研究はまれであり、一貫教育の理論化にまで到達しているものはほぼ見られないこと等である。この成果は、日本地理学会春季大会で口頭発表(「戦後の小中高一貫地理教育カリキュラム研究の変遷」)し、雑誌「地理」に掲載される予定である。

● 課題:

1. 吉田

課題には、次の二つがあげられる。①幼稚園教育要領解説や小中高学習指導要領解説における地理教育関連の記述について、内容にまとめりごとの特徴に応じた学習過程に関する比較・分析を行うこと、②学習指導要領解説などに記載の指示方向をもとにして、新たな地理的技能の方向性について検討すること。

2. 守谷

①幼児教育を含めた戦後日本の地理教育カリキュラムの内容の分析

②カンボジア教育省を事例とした、国家カリキュラム構築過程における多様な主体間の相互作用に着目した分析

3. 前田

①各校種における地理的技能育成の系統性に関する具体的分析

学習指導要領本文・解説などの記述を対象に、発達段階に応じてどのような技能が育成されてきたのか具体的に分析し整理する。

②地理教育における情報化への対応とその変遷について

学習指導要領の記述を対象にし、我が国において情報化に対してどのように対応しようとしてきたのかその変遷と現状を明らかにする。

4. 近藤

①「幼児教育における地理教育に類するものの研究」

幼稚園教育で扱われている領域「環境」と「人間関係」には地理教育に関するものがみられることから、これらを抽出し、その変遷をとらえる。

②「目標分類学の視点からみた戦後高等学校における地理教育目標の類型化」

目標分類学の視点から、戦後日本の高等学校における地理教育の目標変遷の特徴を、タキソノミーの視点から明らかにする。

文責：近藤裕幸（ユニット長）

諸外国カリキュラムユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

管野友佳(仙台市立西山小), 阪上弘彬(千葉大学), 永田成文(広島修道大学), 吉田剛(宮城教育大学)

● 活動の概要:

本ユニットは, 幼小中高一貫のカリキュラムの在り方を検討するために, 諸外国における地理教育カリキュラムを調査することを主たる活動とする。そこで, 本ユニットのメンバーが研究対象国のカリキュラムを中心に uptake, 活動を実施した。

● ユニットミーティングの開催記録とおもな内容:

1. 7月18日 19:00~20:00(ZOOM) 今後の活動の検討, ユニットメンバーの担当国を確認, カリキュラムの分析視点を確認した。
2. 8月19日 20:00~20:30(ZOOM) メンバーによる報告(阪上:IRGEE, ドイツ, 吉田・管野:オーストラリア NSW, 永田:オーストラリア VIC), 夏の例会に向けたスライドづくりに関する分担を確認した。

上記のミーティングとは別に, 適宜メールや代表会議において本ユニットの進め方, 雑誌地理における連載の進め方・執筆分担を協議, 確認した。

● 成果:

1. 世界全体(IRGEE 中心), ドイツ, オーストラリア(NSW, VIC)におけるカリキュラム動向を紹介した。
2. 雑誌地理において, 本ユニットの成果に関わる原稿を執筆, 投稿した(掲載は次年度)。

● 課題:

8. 他国のカリキュラムの実態を継続して調査する。
9. 国内ユニットと連携した研究を模索する(例えば, 日本国内における海外カリキュラムを取り上げた研究史など)。

文責:阪上弘彬(ユニット長)

ESD・SDGs ユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

今野良祐(筑波大附属坂戸高等学校)【中等地理における ESD・SDGs の授業の考え方】, 齋藤亮次(公文国際学園中等部・高等部)【中等地理における ESD・SDGs の授業の考え方】, 阪上弘彬(千葉大学)【国外の ESD・SDGs 研究の動向】, 永田成文(広島修道大学)【国内の ESD・SDGs 研究の動向】

● 活動の概要:

当初の活動は永田, 阪上の大学教員の2名であったが, 8月の日本地理教育学会研究グループ公開研究会の発表以降に, 教育現場の地理教育に携わる今野, 齋藤が加わって4名で活動している。主な活動は, これまでの ESD や SDGs の教育は地理教育とどのようなかわりがあったのかを検討し, ESD としての地理授業に SDGs の考え方をどのように導入していくのかについて考察している。

● ユニットミーティングの開催記録とおもな内容:

- ① 2022年7月5日(火)19:30-20:30(ZOOM)
役割分担の確認と ESD・SDGs の研究レビューの確認
- ② 2022年8月5日(金)17:00-18:00(ZOOM)
ESD・SDGs の研究レビューの内容の検討と学会研究グループ公開研究会の発表内容検討
- ③ 2022年10月20日(木)20:00-21:00(ZOOM)
ESD・SDGs との関係の検討, 4人体制での役割分担の確認
- ④ 2022年11月24日(木)20:00-21:00(ZOOM)
ESD・SDGs と OECD ウェルビーイングの考え方の検討, 地理 ESD 授業実践の紹介
- ⑤ 2022年12月22日(木)20:00-21:00(ZOOM)
ESD・SDGs と OECD ウェルビーイングとの関係の検討, ESD と社会科地理教育との関係確認
- ⑥ 2023年1月26日(木)20:00-21:00(ZOOM)
ESD と SDGs の考え方の再確認, 地理 ESD 授業カリキュラムの大枠確認
- ⑦ 2023年2月24日(金)20:00-21:00(ZOOM)
外国の地理教育における ESD の考え方, 地域調査における ESD・SDGs を導入した授業実践
- ⑧ 2023年3月28日(火)20:00-21:00(ZOOM)
ユニットの1年間の活動報告の確認, ユニットの月刊『地理』執筆内容の確認

● **成果:**

1. 月1回をペースに ESD・SDGs にかかわる研究や授業実践の報告を定期的に行うことができた。
2. 2022 年 8 月 21 日(日)の日本地理教育学会研究グループ公開研究会において, ESD・SDGs に関する研究のレビューと地理教育との関係や, ESD・SDGs の研究は大枠で授業構成論や資質・能力やカリキュラム編成からの研究に分けられること示した(永田・阪上発表)。

● **課題:**

1. ESD と SDGs の関係については, 文部科学省の「持続可能な社会の創り手を育成する ESD は, 持続可能な開発目標(SDGs)を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献する」という見解を前提として, 国連総会で採択された「ESD for 2030」や OECD の「Education 2030」の GCED(グローバルシティズンシップ教育)考え方との関係をさらに検討していきたい。
2. 世界全体の動向に着目し, ESD としての地理授業カリキュラムの大枠を検討する。その中で, より ESD としての地理授業が実践できる单元について検討・提案していきたい。

文責:永田成文(ユニット長)

地誌・系統地理・テーマユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

牛垣雄矢(東京学芸大学), 金田啓珠(山形県立東桜学館中学校・高等学校), 河本大地(奈良教育大学), 深見聡(長崎大学)

● 活動の概要:

本ユニットのミッションは、「地誌・系統地理・主題などの地理教育カリキュラムにおける系統について検討する。その他、観光、地域研究、都市などのトピックからの系統についても検討する」ことである。検討事項が多岐にわたるが、児童生徒が学校教育を通じて「地域」をどう形づくるかが大事との議論がなされた。そこで、各自の関心のあるテーマについて、各学校種・学年・教科における「地域」に関わる内容とつながりの洗い出しをおこなうこととした。

まずは、人口、ローカル地域学習、身近な地形と防災、国境島しょにかんして、下記2点を進めていくことを確認した。①現行の小・中・高の学習指導要領における各テーマの取り扱い方を調べ、まとめる。その際、社会科・地理歴史科に限定せずにおこなう。②現行の小・中・高の教科書における各テーマの取り扱い方を調べまとめる。手元にある社会科・地理歴史科の教科書から始める。あわせて、小・中・高での学びについて、大学生の記憶からのアプローチも試みている。

● ユニットミーティングの開催:

下記日時に Zoom ミーティングを開催した。

- ① 2022年7月24日(日) 20:00~
- ② 2022年10月15日(土) 20:00~
- ③ 2022年11月8日(火) 20:00~
- ④ 2022年12月13日(火) 20:00~

その後はメールでやり取りした。

● 成果:

牛垣は、小学校社会科、および中学・高等学校の地理における「人口」の扱いについて、先行研究を整理するとともに、学習指導要領や教科書をもとにまとめた。河本は、2022年度日本地理教育学会大会(8月21日)にて、「小中高の地域学習に関する大学生の記憶が示唆するもの—『小中高一貫地理教育カリキュラム研究』に向けて—」と題して発表した。

● 課題:

- ・ 各自の作業が終わっていないので進める。
- ・ 小・中・高での学習内容について、おおまかにでも系統地理と地誌のマトリックスを作成すると、全体に資するところが大きそうである。

文責:河本大地(ユニット長)

フィールドワークユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

大矢幸久(学習院初等科)【小学校】, 阪上弘彬(千葉大学)【論文レビューの総括】, 椿実土里(北海道恵庭南高等学校)【高等学校】, 中村洋介(公文国際学園中等部・高等部)【中学校】, 林靖子(獨協埼玉中学高等学校)【高等学校】

● 活動の概要:

当初の活動は中村, 阪上の2名であったが, 8月からは大矢, 林, 9月からは椿が加わって5名で活動した。おもな活動は, 小中高のフィールドワークの現状を学習指導要領と文科省検定済み教科書から確認し, 「フィールドワーク」の仮の定義を定めた。ミーティング(オンライン)は月に一度開催し, 11月以降のミーティングでは, 所属メンバー1名からフィールドワーク実践報告または外国の文献紹介を行い, メンバー間で共有した。11月からは Systematic Review (Watanabe et al. 2021) の方法にしたがって, 小中高のフィールドワークに関する約130本の研究・実践論文を抽出して, 分担してレビューを行った(2023年4月からはレビューの結果についてまとめ作業を始める予定である)。

なお, 「フィールドワーク」の仮の定義は, 「フィールド(調査地)に出る学習をいい, その事前事後で地形図・写真などの判読, 発表, 振り返りなどの諸活動が入る学習」とした。

● ユニットミーティングの開催記録とおもな内容:

10. 5月27日 10:00~11:00 (ZOOM) 今後の活動の検討
11. 6月17日 10:00~11:00 (ZOOM) 今後の活動の検討
12. 7月11日 10:00~14:00 (対面) 学習指導要領, 教科書の検討
13. 8月1日 11:00~12:00 (ZOOM) 今後の活動の検討
14. 8月4日 19:00~20:00 (ZOOM) 学習指導要領・教科書の検討
15. 8月27日 19:30~20:30 (ZOOM) 研究グループ公開研究会の振り返り
16. 9月27日 19:30~21:00 (ZOOM) 論文レビューにあたって
17. 11月2日 19:30~21:00 (ZOOM) 高校のフィールドワークの実践報告(椿)
18. 12月7日 19:30~21:00 (ZOOM) フィールドワークの傾向に関する論文紹介(林)
19. 1月18日 19:30~21:00 (ZOOM) イギリスのフィールドワーク学習についての文献紹介(大矢),
現状・課題シートの検討
20. 2月20日 19:30~21:00 (ZOOM) 中学校のフィールドワークの実践報告(中村)
21. 3月23日 19:30~21:00 (ZOOM) 論文レビューについての検討, 系統表の検討

● **成果:**

3. 小中高における「フィールドワーク」に関する現行学習指導要領と教科書からの分析. 2022年8月の日本地理教育学会研究グループ公開研究会にて発表(中村・阪上・大矢)

● **課題:**

3. 小中高のフィールドワークに関する論文レビューから,小中高のそれぞれの校種における学習の特徴を抽出して,各校種の接続を検討する。
4. 小中高の接続の検討と合わせて,幼児教育との接続を検討する。
5. 「近未来」を想定したフィールドワークを検討する。

文責:中村洋介(ユニット長)

GIS/地図ユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

伊藤智章(富士東高), 伊藤恵(仙台育英高), 國原幸一朗(名古屋学院大学), 河本大地(奈良教育大), 吉田剛(宮城教育大学)

● ユニットミーティングの開催記録とおもな内容(すべて zoom で開催):

① 2022年6月25日(土)13:30~14:50 出席者3名

内容:役割分担と今後の研究方向について

小中学校(地図・GIS)が河本, 小・中学校(景観写真)が吉田, 高等学校(地図・GIS)が伊藤智章, 高等学校(景観写真)が伊藤恵, 中等学校全般が國原となった。まず現状分析のため, 現行学習指導要領と過去の学習指導要領をもとに地図・GIS・景観写真の取り扱い方を調べまとめる。あわせて小学校から高等学校までの現行学習指導要領下の社会科・地理の教科書を入手し, 教科書で地図・GIS・景観写真がどう取り扱われているかを調べまとめることを確認した。

② 2022年9月18日(日)10:05~12:00 出席者9名

内容:高校教員から見た「小中高一貫地理カリキュラム」に思うところ—地図・GISを中心に—メンバーの伊藤智章先生より問題提起をいただいた。ご自身の体験にもとづき, なぜ今「カリキュラム」を考えなければならないのか, 「積み上げ型」カリキュラムは本当に成り立つのか, 「コマ型」カリキュラムと地図・GISの位置づけ, 授業での取り組み事例, 「地理総合」の現実について発表された。その後, 参加者より自己紹介を含め, いくつかの質問があり, 発表者も具体例を交えて詳細に回答・説明され, 活発な意見交換がなされた。最後にメンバー間で新メンバーの三浦徹先生(札幌丘珠高)の紹介と今後のユニット会の進め方を確認した。

③ 2022年10月29日(土)11:10~12:00 出席者:3名

内容:日本地理学会秋季学術大会シンポジウム報告と中高の学習指導要領及び教科書分析の報告

國原より上記の「地図・地理情報システムと地誌学習」と「「地理総合」開始後の地理教育における課題と展望」の報告(質疑含む), 中学校と高等学校の学習指導要領(1989・1998・2007・2016)の目標・内容・内容の取り扱い(すべて関連部分)と中学校社会科地理的分野と高等学校「地理総合」の教科書分析の結果について報告した。ネットワーク不調のため参加者が少なく, 発表内容を伝えられなかったため, 後日PDFをメンバーに送付した。意見交換を行い, 古今書院への投稿について執筆・取りまとめの担当を決めた。

④ 2022年12月3日(土)11:10~11:45 出席者:2名

内容:高校教員から見た「小中高一貫地理カリキュラム」に思うところ—地図・GISを中心に—Vol.2

メンバーの三浦徹先生より問題提起をいただいた。地図やGISに対する現場の意識, GISに対するアレルギー, 何が求められ何が必要なのか, GIS・地図の役目について発表された。本発表

では、地図や GIS を活用して汎用的で実践的な地理的技能を育むことを冒頭で扱わなければならない「心的ハードルの高さ」がある、理論と分かりやすさ・求められる知識と教材の軸・操作のシンプルさが重要である、世代の異なる教員集団が地理 (GIS/地図) をいかに理解し生徒に教えやすい教材を示すことが必要である、GIS/地図の必要性を理論的に理解してもらい積み重ねが必要であるといった地図・地理教育の本質に関わる問題が提起された。意見交換では、歴史や公民の先生が「地理総合」を教えられるための体制づくり、生徒は早いうちから「Google Map」を使い慣れ、地理専門教員は専門性を求める教員が多いが、教員によって抱えている課題が異なり、多くの教員が求めている問題に対応できていないことを確認した。

● 成果と課題

1. 2月例会より幼少期の体験を通じた空間認識がその後の地図・地理教育に大きな影響を与えることを再認識したが、このつながりは地理教育では研究があまり進んでおらず、認知科学などの関連分野の情報収集や連携が必要である。
2. 学習指導要領と教科書の分析を通して地図・地理教育の動向と各校種で重視されていることを把握することはできたが、多様な個の学びをふまえたカリキュラムづくりの検討が必要である。
3. 文献レビューと実践をふまえた理論モデル構築と修正は今後も継続して行う必要がある。
4. 地図はどの校種でも取り扱い、活用法や技能については広くみていく必要があるが、本ユニット会は GIS を主としている印象を持たれているためか、メンバーの構成が高等学校に偏ってしまった。
5. 「地理総合」における学校現場の課題を垣間見ることができたが授業実践の改善につながるカリキュラムを示すことを行うのかの検討も必要である。着目する時間スケールは近未来か現在か、両方かが問われている。

文責：國原幸一朗 (ユニット長)

テクノロジーユニット・DBユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

飯島典子(宮城教育大学), 大江田志帆(宮城教育大学・院), 岡本恭介(宮城教育大学), 菅野友佳(仙台市立西山小), 鈴木達也(水戸第一高附属中), 前田諒(仙台市立蒲町中), 吉田剛(宮城教育大学)

● 両ユニットの目的(9月より開始):

1. テクノロジー:地理教育における ICT・AI・ドローンなどの活用法, デジタル教科書教材などの分析, 地理教材としての動画の検討など。
2. データベースユニット:メンバーを中心とした一貫地理教育カリキュラムに関する文献情報などの収集と整理。

● 成果:

1. テクノロジー

4 回ほどのユニット会を開催した。岡本先生より, 教育工学における AI や VR 活用の情報提供が得られ, VR によるフィールドワーク学習の可能性が協議された。飯島先生より, 幼稚園教育におけるプログラミング学習やタブレット活用の情報提供が得られ, 幼児の地理的なものとのらえなどにかかわる様子が説明された。その一部は, 例会第4回の飯島先生の講演内容に繋がる。前田先生より, 中学地理学習におけるタブレット・ICT 活用, ロイロノートの活用性などに関する情報提供が得られ, 中学校現場におけるロイロノート活用が情報入力中心となる傾向が多くみられ, 考察することやそれを表現説明することへの時間のかけ方が課題として議論された。また生徒自身によるデジタルポートフォリオの作成が上手く行えず, 有効な作成法に関する蓄積も少ない点も課題としてあげられた。他方で, 小学校段階での ICT 活用とタブレット持ち帰りの議論があり, そもそも自宅での社会科課題の取り組みも指摘された。デジタル教科書教材の扱い方についても静止画・動画を問わず, どこまで教員がそれを用いて授業展開ができるのかといった議論もみられた。加えて一貫カリキュラムにおけるテクノロジーの系統表の内容の検討を行った。

なお 2023 年度 東北地理学会 第 1 回 研究集会(地理教育研究グループ第 5 回研究集会)「新たな「地理的技能」を育む地理授業の工夫」2023 年 4 月 1 日(土)において, 本ユニットに関わる研究成果が発表された。吉田は, 地理教育における AI 活用(ChatGTP)と VR や AR に関わるメタバースの活用の可能性について展望した。また伊藤は, 実践における身近な地域のフィールドワークにおけるドローン活用について報告した。

【基調報告】吉田剛:新たな「地理的技能」としての AI 活用等の可能性。

【報告 1】前田諒:小・中・高の学習指導要領にみる地理的技能の系統性

【報告 3】伊藤恵:身近な地域を素材にしたドローンの活用法

2. データベース

テクノロジーと合同会もあり、全部で 3 回ほどのユニット会を開催した。本研究グループの専用サイト(<https://sites.google.com/view/coherence-geography-education/>) は、7 月以降から充実してきている。今後は、実践系の成果の進捗状況を見据えて、小中高の単元開発例、関係情報の更新を図っていく。また関係の学会発表や、古今書院の月刊「地理」での本グループ情報をアップする予定。なお本グループ専用サイトにリンクする FB の小中高一貫地理教育カリキュラム研究グループの公開「広場」も立ち上げ、FB メンバーにおいても情報提供を図る。

● 課題:

1. 研究対象が広いため、上記の成果を踏まえ、各メンバーの関心に応じて研究を掘り下げ、実践研究に役立てていく。
2. デジタル教科書教材の活用における具体的な効果を探ることや、タブレット端末・AI 活用などの教育工学的な検討のほかにも情報モラル(デジタル・シティズンシップ)なども吟味したい。

文責:吉田剛(ユニット長)

小中一貫ユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

内川健(成蹊小学校), 大矢幸久(学習院初等科), 小澤裕行(犬山市立犬山小学校), 中谷佳子(千葉大学教育学部附属小学校), 佐藤克士(武蔵野大学)

● 活動の概要:

2022年度, 本ユニットは, 5名(内川健, 大矢幸久, 小澤裕行, 中谷佳子, 佐藤克士)のメンバーで合計7回の打合せ(情報共有)を行った。詳細は, 下記の通りである。

● ユニットミーティングの開催記録とおもな内容:

- ① (2022年6月29日): 本ユニットの研究計画と研究方法【佐藤克士】
- ② (2022年8月2日): 立地概念を軸とした小中一貫地理教育カリキュラムの開発【大矢幸久】
- ③ (2022年8月29日): 被災地の経験を実社会につなげる社会参画型の社会科学習【中谷佳子】
- ④ (2022年9月28日): 小金井桜を事例に, 地域資源の持続可能性を考察する社会科学習【内川健】
- ⑤ (2022年10月26日): 中学校社会科における地理と歴史を連携させた授業実践【小澤裕行】
- ⑥ (2022年11月30日): 改訂版授業構想シートの提案と今後の予定【佐藤克士】
- ⑦ (2023年1月30日): 小学校地理教育から考える中学校地理教育-「位置や分布」概念の育成をめざす小中一貫地理授業プランの提案-(日本地理教育学会2月例会の検討)【大矢幸久】

● 成果:

1. 第1回に確認した打合せ日程に基づき, 各メンバーが小中一貫地理教育カリキュラムの構築に向けた授業提案を行い, それをメンバー間で建設的な議論を行うことができた。これらの成果の一部は, 大矢幸久氏が代表して日本地理教育学会 2022年度2月例会にて発表した(「小学校地理教育から考える中学校地理教育」: 「位置や分布」概念の育成をめざす小中一貫地理授業プランの提案-工業学習を事例として-)。

● 課題:

1. 今後は, 上記の成果を踏まえ, 各メンバーが提案した授業プランを幼小中高の一貫カリキュラムの構築を見据えてブラッシュアップしていくことが課題である。

文責: 佐藤克士(ユニット長)

中高一貫ユニット

● 所属メンバーと担当(五十音順):

伊澤直人(西尾市立東部中),伊藤(直)(広島大学附属中高),牛込裕樹(大津中野中高),小澤裕行(犬山市立犬山北小),木場篤(ノートルダム清心中高),児玉和優(愛知教育大附属中),阪上弘彬(千葉大学),鈴木達也(水戸第一高附属中),鈴木瞭(名古屋市立緑高),高木優(神戸大学附属中等),中村洋介(公文国際学園),内藤亮(東京女学館中高),番匠谷省吾(広島大附属福山中高),前田諒(仙台市立蒲町中)

● 活動の概要:

本ユニットは,主として中学校・高等学校・中等教育学校に所属するメンバーを中心として,中高連携を意識した地理授業を構想することを活動の目的とする。

● ユニットミーティングの開催記録とおもな内容:

① (2月16日):小中一貫ユニットと合同で授業構想の意見交換会を実施した(1時間半)。

● 成果:

1. 小中高一貫授業を構想するための,授業構想シートの原案(木場先生による)作成。
2. 日本地理教育学会2月例会におけるメンバー(木場先生,高木先生)の提案発表。

● 課題:

1. ユニットとして活動が定期的に実施できなかった点。
2. 小中一貫ユニットと連携した授業実践構想。
3. 理論系ユニットとの連携構築。

文責:阪上弘彬(ユニット長)

2022 年度研究業績一覧

学会発表・報告

■ 日本地理教育学会2月例会

テーマ:「幼小中高一貫地理教育カリキュラム研究—理論から実践へ—」

日時:2023 年 2 月 23 日(木) 祝日 14:00~16:30

司会進行:永田成文(広島修道大学)・阪上弘彬(千葉大学)

趣旨説明および基調報告:吉田剛(宮城教育大学):一貫地理教育カリキュラムの理論から実践へ

報告1:飯島典子(宮城教育大学):幼稚園教育から考える小学校地理教育

報告2:大矢幸久(学習院初等科):小学校地理教育から考える中学校地理教育

報告3:木場篤(ノートルダム清心中・高等学校):中学校・高等学校地理教育の一貫性

報告4:高木優(神戸大附属中等教育学校):高等学校「地理総合」を起点としてみる一貫性

コメント:近藤裕幸(愛知教育大学), 総合討論, 総括:吉田剛(宮城教育大学)

■ 学会発表

【日本地理教育学会第72回大会@オンライン】

- ・ 吉田剛:小中高一貫地理教育カリキュラムの近未来構想—「地理的概念の順次性」を軸とした場合—
- ・ 河本大地:小中高の地域学習に関する大学生の記憶が示唆するもの—「小中高一貫地理教育カリキュラム研究」に向けて—

【中国四国教育学会第74回大会@香川大学】

- ・ 守谷富士彦:戦後の地理教育は何を期待されてきたのか—小中高の内容の系統性に着目して—

【日本地理学会春季学術大会@東京都立大学】

- ・ 吉田 剛:幼小中高一貫地理教育における地理的探究
- ・ 近藤裕幸・守谷富士彦:戦後の小中高一貫地理教育カリキュラム研究の変遷
- ・ 木場篤:中等地理教育における地域の見方・考え方の位置づけと展望—「小中高一貫地理教育カリキュラム研究」に向けて

書籍・論文等

■ 書籍

- ・ 石井英真編(2022):『高等学校真正(ほんもの)の学び, 授業の深み』学事出版 <https://www.gakuji.co.jp/script/bkDtl.php?prodid=978-4-7619-2859-9>
- ・ 石井英真(全体編集)・高木優(教科編集)(2023):『ヤマ場をおさえる単元設計と評価課題・評価問題 中学校社会』図書文化社. <http://www.toshobunka.co.jp/books/detail>.

php?isbn=ISBN978-4-8100-3772-2

- ・ 梅津正美・永田成文編(2023):『板書&展開例でよくわかる 主体的・対話的で深い学びでつくる365日の全授業 中学校社会 地理的分野』明治図書出版 <https://www.meijitosh.co.jp/detail/4-18-529120-0>
- ・ 橋本康弘・中本和彦編(2023):『つまずきから授業を変える!高校地理「PDCA」授業&評価プラン』明治図書出版 <https://www.meijitosh.co.jp/detail/4-18-389635-3>

■ 論文

- ・ 近藤裕幸(2023):小学校・中学校・高等学校の学習指導要領にみられる「一貫性」の扱いー地理教育を中心にしてー. 探究, 33, 印刷中.
- ・ 守谷富士彦(2023):戦後日本の地理教育カリキュラムにおける内容の系統性ー小・中・高で学習する空間範囲と内容範囲に着目してー. 教育学研究紀要(CD-ROM 版), 68, pp.300-305.
- ・ 吉田剛(2023):近未来社会型の幼小中高一貫地理教育カリキュラムのフレームワーク. 宮城教育大学紀要, 57, pp.137-157.
- ・ 吉田剛・管野友佳(2023):オーストラリア連邦ニューサウスウェールズ州幼小中高一貫地理シラバス 2015年版の地理的探究スキルの分析ー我が国の「社会的事象等について調べるまとめる技能」の改善に向けてー. 宮城教育大学教職大学院紀要, 4, pp.51-63.

研究グループ公式ウェブサイト

「小中高一貫地理教育カリキュラム研究グループ」

<https://sites.google.com/view/coherence-geography-education/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>